

政治的権威の必要性

中国人民共和国は、台湾だけは現在の民主主義選挙制度を維持することの代わりに、台湾が中国人民共和国に対して忠誠を誓うことを要求してくるだろう。それに日本は、どう応えるのか？ そこがいちばんのポイントである。

天皇は、いっさい政治に口出しはしない。そういう意味で天皇には政治的権力はない。しかし、天皇には権威がある。その権威はもちろん宗教的権威ではない。それでは、その権威を何と呼べばいいのか？ 私は、それを政治的権威と呼ぶこととしている。

毛沢東は、絶対的権力を志向したため、宗教的権威のみならず政治的権威をも認めなかった。宗教心がまったくなかった訳ではなかったようだが、宗教家ではもちろんなかった。宗教的権威者ではない。何事も恐れない絶対的権力者として君臨した。

中国の皇帝は、長い歴史における天命思想を背景として絶対的権力者として君臨してきた。現在、中国共産党の最高指導者は、昔の皇帝のように、絶対的権力者として君臨している。それを肯定し得る思想的背景は天命思想である。そこで私は、現在の中国共産党最高指導者を今皇帝と呼ぶことにしている。今皇帝は歴史的に天命政治を受け継いでいるのである。

しかし、残念ながら、皇帝には政治的権力があっても政治的権威はない。天皇の政治的権威というものは、基本的には、万系一斉、歴史的に天皇の血が受け継がれてきたところにある。そのことについては、私の論文がある。

<http://www.kuniomi.gr.jp/geki/iwai/tenkeni.pdf>

中国には、天皇のような存在はない。したがって、天皇のような政治的権威者をつくるとすれば、それは、天帝の代理人としての宗教的権威者にならざるを得ない。

私は、中国が歴史的な天命政治を未来永劫続けていくには、今皇帝を教育し得る宗教的権威者が必要と考えている。

<http://www.kuniomi.gr.jp/geki/iwai/imakouteino.pdf>

そうすれば、宗教的権威者は、ただちに政治的権威者にもなりうる。政治的権威者というものは、日本の天皇がそうであるように、政治的発言はいっさい無用である。政治的権威

というのは、宗教的な繋がりがあろうとなかろうと、政治家であれば誰でも自ずと畏れ入るような権威である。

中国が、もし将来、台湾を併合したとき、台湾省の閣僚は、今皇帝の教育者でもある道教の最高権威者から辞令を拝受する。そうすれば、台湾省の閣僚は、総統も含めて、天を畏れるようになる。そうすれば、台湾省の閣僚は、総統も含めて、自分の省はもとより国全体の発展に尽くそうという気分になるだろう。今皇帝に忠誠を尽くす人が出てくるかもしれない。それが天命政治のいいところだ。